

科目・コース（ユニット）名：薬理学
英語名称：Pharmacology

【担当責任者】下村 健寿

【連絡先】pharm@fmu.ac.jp

【開講年次】2 年，【学期】前期・後期【必修／選択】必須

【授業形態】講義

【概要】

薬理学とは、薬物が生体に及ぼす作用、および生体が薬物に及ぼす作用を研究する学問である。病気の予防、診断および治療に用いられる薬物の重要性は言うまでもない。しかし“くすり”は“リスク”でもある。痛みや不安などをはじめとした様々な症状に悩む人を救うために、医師は薬物を“リスク”ではなく、“くすり”として使わなければならない。そのためには薬物についての正しい知識が不可欠である。そこでいろいろな病気の治療薬について、作用メカニズムを理解し、薬理学の基礎知識を身につける。またそれを土台にして臨床薬理学を修得できるようにする。

【学習目標】

一般目標

- ① 薬物の作用とそのメカニズムを理解する。
- ② 将来にわたって薬物に関する最新情報を自学自習できるように、情報をどのようにして得るかを習得する。
- ③ 薬物についてわかりやすく説明する態度を身につける。

行動目標

- ① 薬物の用量と作用の関係について説明できる
- ② 体内への吸収、分布、代謝、排泄について説明できる。
- ③ 受容体を列挙しその情報伝達経路、効果を説明できる。
- ④ 受容体のアゴニスト、アンタゴニストを列挙しその効果を説明できる。
- ⑤ 様々な疾患に対する主な治療薬の一般名を列挙できる。
- ⑥ 薬物の作用機序を説明できる。
- ⑦ 薬物の副作用を説明できる。

【教科書】

薬がみえる vol. 1：第2版 メディックメディア（2021年）
薬がみえる vol. 2：第2版 メディックメディア（2023年）
薬がみえる vol. 3：第2版 メディックメディア（2023年）
薬がみえる vol. 4：第1版 メディックメディア（2020年）

【参考書】

NEW 薬理学 改訂第8版 田中千賀子・加藤隆一・成宮周 編 南江堂（2025年）

グッドマン・ギルマン薬理書〔上・下〕改訂第13版 廣川書店（2022年）

【成績評価方法】

評価は2回の筆記試験の成績により行う。

講義の3分の2以上に出席した者を筆記試験の受験資格者とする。

合格に要する到達点は100点満点中60点とする。

【学習上の注意事項】

本科目では、図表が豊富な教科書を中心に、参考書や他の医学書を活用した主体的かつ幅広い学習を促すことを重視する。講義資料は学習理解を補助する目的でオンライン上に掲載するが、資料のみに依存せず、複数の資料を参照しながら学習することを推奨する。

【垂直的統合授業の実施内容】

「麻酔薬」授業における麻酔科領域薬物に関する授業実施

「抗炎症薬・免疫調節薬」授業におけるリウマチ膠原病内科領域や移植免疫学領域薬物に関する授業実施

「内分泌療法薬」授業における産婦人科領域や内分泌科領域薬物に関する授業実施

「循環器系疾患治療薬」授業における循環器内科領域薬物に関する授業実施

「排尿障害治療薬」授業における泌尿器科領域薬物に関する授業実施

「血液作用薬」授業における血液内科領域薬物に関する授業実施

「呼吸器系疾患治療薬」授業における呼吸器内科領域薬物に関する授業実施

「消化器系疾患治療薬」授業における消化器内科領域薬物に関する授業実施

「中枢神経系作用薬」授業における精神神経医学領域や脳神経内科領域薬物に関する授業実施

「抗がん薬」授業における各腫瘍科領域薬物に関する授業実施

「薬物相互作用」授業における臨床薬理学分野に関する授業実施

【水平的統合授業の実施内容】

「細胞内情報伝達や生理活性物質」授業における生化学や生理学分野に関わる授業実施

「自律神経系作用薬」授業における神経生理学分野に関わる授業実施

「免疫調節薬」授業における免疫学分野に関わる授業実施

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

「薬がつくられるまで」授業における創薬（drug discovery and development）および遺伝子治療など新たな治療軸（モダリティ）に関する授業実施

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員	備考
1	2026/4/3	金	2	(講) 薬理学とは	下村	vol. 4
2	2026/4/3	金	3	(講) 薬物の標的と生理活性物質	日出間	vol. 4
3	2026/4/10	金	2	(講) 薬物の吸収と分布	鈴木	vol. 4
4	2026/4/10	金	3	(講) 薬物の代謝と排泄	鈴木	vol. 4
5	2026/4/17	金	2	(講) 薬がつくられるまで	鈴木	vol. 4
6	2026/4/17	金	3	(講) 交感神経系	日出間	vol. 1
7	2026/4/24	金	2	(講) 副交感神経系	日出間	vol. 1
8	2026/4/24	金	3	(講) 筋弛緩薬・麻酔薬	日出間	vol. 1
9	2026/5/1	金	2	(講) 抗炎症・抗アレルギー薬	鈴木	vol. 2
10	2026/5/1	金	3	(講) NSAIDs、膠原病治療薬	日出間	vol. 2
11	2026/5/8	金	1	(講) 免疫調節薬	鈴木	vol. 2
12	2026/5/8	金	2	(講) 内分泌疾患治療薬	日出間	vol. 2
13	2026/5/15	金	2	(講) 糖尿病・肥満症治療薬	下村	vol. 2
14	2026/5/15	金	3	(講) プリン代謝、骨代謝	鈴木	vol. 2
15	2026/5/22	金	2	(講) 脂質異常症治療薬	下村	vol. 2
16	2026/5/22	金	3	(講) 利尿薬、排尿障害治療薬	下村	vol. 1
17	2026/7/3	金	2	(講) 心不全、狭心症治療薬	下村	vol. 1, 2
18	2026/7/3	金	3	(講) 抗不整脈薬	鈴木	vol. 1
19	2026/7/10	金	2	(講) 高血圧治療薬	下村	vol. 1
20	2026/7/10	金	3	(講) 肺高血圧症・貧血治療薬	鈴木	vol. 1
21	2026/9/4	金	2	(講) 血液作用薬、造血因子	鈴木	vol. 2
22	2026/9/4	金	3	(講) 呼吸器系疾患治療薬	下村	vol. 2
23	2026/9/11	金	2	(講) 消化器系疾患治療薬	鈴木	vol. 3
24	2026/9/11	金	3	(講) 麻薬性鎮痛薬	前島	vol. 1
25	2026/9/18	金	2	(講) パーキンソン病治療薬	前島	vol. 1
26	2026/9/18	金	3	(講) 抗てんかん薬	前島	vol. 1
27	2026/9/25	金	2	(講) 抗うつ薬	前島	vol. 1
28	2026/9/25	金	3	(講) 抗不安薬、催眠薬	鈴木	vol. 1
29	2026/9/29	火	2	(講) 統合失調症治療薬	前島	vol. 1
30	2026/9/29	火	3	(講) 薬物乱用	日出間	vol. 1
31	2026/10/2	金	2	(講) 抗がん薬総論	鈴木	vol. 3
32	2026/10/2	金	3	(講) 抗がん薬 1 (細胞毒性薬)	日出間	vol. 3
33	2026/10/9	金	2	(講) 抗がん薬 2 (分子標的薬)	鈴木	vol. 3
34	2026/10/9	金	3	(講) 薬物相互作用	鈴木	vol. 4

【担当教員】

教員氏名	職	所属
下村 健寿	主任教授	病態制御薬理医学講座
前島 裕子	准教授	病態制御薬理医学講座
日出間 志寿	学内講師	病態制御薬理医学講座
鈴木 学	助教	病態制御薬理医学講座

【医師として実務経験のある教員による授業科目】